

<p>理化學研究所彙報 第16輯 第2號 昭和12年2月 硝酸による鐵及鋼の受動態に関する研究(第14報) 山本 洋一 (59)</p> <p>電氣評論 第25卷 第2號 昭和12年2月 パーマロイ及之に關聯せる強磁性合金(2) 清水 和人 (161)</p> <p>電氣化學 第5卷 第2號 昭和12年2月 亞鉛増收新法 亞鉛鍍又は黒鍍焙燒物中の亞鐵酸亞鉛の硫酸に依る新分解法「附」鉛及び銅回收法 加藤與五郎・山中 藤彦 (61)</p> <p>鐵鋼の酸洗(其の1) 深町 富藏 (66)</p> <p>日立評論 第20卷 第2號 昭和12年2月 工業家及技術者に望む 久村 種樹 ()</p> <p>造兵彙報 第15卷 第2號 昭和12年2月 マグネシウム合金研究調査に関する出張報告 細川 清二 (11)</p> <p>鑄物 第9卷 第2號 昭和12年2月 シルジン青銅に就て(2) 横田 清綱 (65) 歐米に於ける鑄物の最近の趨勢(3) 百々 初男 (81) 大型鑄物の鑄造の一例 山本 光男 (94) 鑄鐵の降伏力の計算式 山田 福治 (102) 銑鐵飢饉と其の對策に就て 伊藤 孝吉 (105)</p> <p>資源 第7卷 第2號 昭和12年2月 獨逸の燃料自給策と褐炭 大島 義清 (1) 我國及歐洲主要國に於ける人口動態に就て (12) 1935年に於ける列國化學工業の展望(其の2) (30)</p> <p>造幣局研究報告 第5號 第1~5報 顯微鏡組織より見たる偽造貨幣鑑別上の一考察 岡村 馨 () 高温に於けるニッケルの牽引試験不變色性銀合金に就いて 岡田左一郎 () 引揚50錢銀貨の精製 八木 秀雄 () 鉛の電氣分析に關する研究 森下 一二 () 補助貨幣地金たる純ニッケル及青銅の燒鈍溫度に就いて 葛城 一郎 ()</p> <p>海外經濟事情 第3號 昭和12年2月 英領印度鑛業概況(1935年度) 石川 實 (63)</p> <p>鞍山鐵鋼會雜誌 第61號 昭和11年12月</p>	<p>石炭の炭質と用途の關係及び粘結性に就て 岡 新六 (959) 第2鋸鑛爐の吹立及び操業に就て 藤田 一章 (972) マグネシヤ煉瓦の物理的性質に就て(2) 三田 正揚 (1019)</p> <p>熔接協會誌 第7卷 第1號 昭和12年1月 鋼の電弧熔接用電極棒被覆劑の研究(第1報) 熔着鋼の見掛の比重に及ぼす電極棒被覆劑の組成の影響 關口春次郎 (1) 熔着金屬の形に及ぶ熔劑の影響 大西 巖 (16)</p> <p>金屬の研究 第14卷 第1號 昭和12年1月 Al-MgZn₂合金の時效硬化の機構に就て 小久保定次郎 (1) 構造用特殊鋼の燒入膨脹速度 八田 篤敬 (11) 金屬セメンテーション(第10報) タングステンに依るセメンテーション 加瀬 勉 (22) 金屬中に於ける價電子(Valency electron)の勢力状態(Energy state)に就て(第5報) 1, 5. 亞鉛の電極に對する水素過電壓の最小値 佐藤 充 (35)</p> <p>航空研究所彙報(東京帝國大學) 第150號 昭和12年2月 電線、山形鋼、鐵塔及び碍子の風洞試験 岡本 哲史・福井 悌吉 (47)</p> <p>採鑛冶金月報 第15年 第2報 昭和12年2月 含銅硫化鐵鑛燒滓處理に關する化學反應に就いて(11) 久島亥三雄 ()</p> <p>工政 第200號 昭和12年2月 國際勞働會議と最近の歐米産業事情に就て 濫澤 正雄 (6)</p> <p>九州鑛山學會誌 第8卷 第1號 昭和12年1月 硫化鐵鑛業の今昔 木下 龜城 (25) 諸金屬製鍊の推移 小川 芳樹 (52) 最近15年間に於ける製造冶金界の進歩 谷村 潔 (55) 最近15年の合金界 今井 弘 (59)</p> <p>燃料協會誌 第173號 昭和12年2月 コークス原料炭の將來 黒田 泰造 (161) コークス技術者座談會 燃料協會編輯 (167) コークス試験法暫定案 燃料協會、コークス試験法委員會 (185)</p> <p>東京工業大學學報 第6卷 第2號 昭和12年2月 新合成接着劑の効果試験に就て(1) 清水 誠 (65) 鐵鋼の滲炭窒化に關する研究(第1報) 河上 益夫 (88)</p>
---	---

新著紹介

紹介者 工學博士 俵 國一

最新電氣製鋼法

著者 谷山 巖 東京修教社發行

頁數 453 價 4圓 50錢

川崎造船所製鋼工場熔鋼課長兼壓鍊課長谷山巖氏は曩に鑄造に關する大著を公にし、今又本書を著せられた、其の勢力の旺盛なる、努力の絶大なること驚嘆に値するものがある。本書は21章に分類せられ、先づ電氣製鋼法の發達を述べてあるが、特に本邦のことを評論された。次に電氣工學的基礎概念として一般電氣の法則を述べ、耐火材料裝入物、酸化劑、脫酸劑等を上げ、次に製鋼電氣爐の種類、構造、設備、電極及び其の調整裝置、能率を説き、進んで製鋼作業法を説くに裝入、酸化、精鍊、更に冷材熔解と熔材作業とに

分ち又特殊鋼製造法、酸性電氣製鋼法、鑄造法、原價計算を上げられた。外に附録として各種鋼の化學成分と機械的性質を述べて日本標準規格の主なるものをも上せてある。

著く弘く内外の参考書を引用せられたるは勿論なるも、其の序文に明にせられたる如くクラ博士の負ふ所が多いやうである、殊に著者自身の永年の經驗に基く達見なり、又得た數字が海外、本邦各所にて得た結果のあるのは貴重なるものと思ふ。方今本邦に於て鋼材特に高級品の需要に迫らるゝ機に當り本書の公にせられたること、誠に時機に適するもので且つ本邦鐵鋼業の進展に裨益する所大なりと考へ深く著者の勞を感謝し度い。